

## 「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（剣道・銃剣道）の実践

富山県氷見市立十三中学校  
教諭 小山 千春

本校は、県西部にある氷見市の最南端に位置する。辺りは、歌人の大伴家持らによって多くの歌がよまれた「万葉集」ゆかりの地であり、緑の多い山々や水田に囲まれた自然豊かで心ひかれる場所である。また、校区である仏生寺地区出身の剣豪「斎藤弥九郎」生誕の地としても有名であり、校庭には銅像が建てられている。令和3年度、スポーツ庁の事業である「武道等指導充実・資質向上支援事業」の武道推進モデル校となり、従来の剣道の授業に加え、新たに銃剣道の体験授業を行った。



校舎全景

### 1 学校の概要

本校は全校生徒83名と小規模である。生徒は素直で明るく、近隣にある保育園や小学校と連携して活動したり、周辺にある「ぎずなの森」整備活動を中心に取り組んだりするなど、地域との連携・協働を大切に行っている。部活動では、女子ハンドボール部が毎年、全国大会に出場し、令和3年度は3位に入賞した。他の生徒も運

動に対して積極的に取り組んでいる。

本校の生徒は、小学校時に総合的な学習で幕末の剣豪「斎藤弥九郎」に関する功績を調べたり、竹刀体操を通じて剣道の基礎を学んだりしてきた。そして、中学校の保健体育科のカリキュラムでは、11月に本格的な剣道の単元を組み込み、授業を行っている。

### 2 実践内容

3年度は、スポーツ庁による「武道等指導充実・資質向上支援事業」を活用し、武道の学びをさらに深めるために、講師を招いて授業を展開することにした。

授業の流れとして、剣道を既習してから銃剣道を学ぶことで、剣道で身に付けた内容を銃剣道に生かし、共通する礼儀作法や基本動作、有効打突などを関連付けることで、より効果的な指導が期待できると考えた。反対に、相違する点を学ぶことで、武道の歴史やつながり、特性などを理解することができると考えた。

剣道の授業は各学年10時間とし、講師は例年通り外部指導者に依頼した。銃剣道の授業は、各学年2時間とし、全日本銃剣道連盟などの専門家に指導していただいた。

#### 【実践研究のねらい】

- ・ 武道の基本である礼儀作法や足さばき、すり足などの動作、「気・剣・体」の一致からの残心のある有効打突などにおいて、共通点を見いだすことにより、武道への意欲・関心を高める。
- ・ 技の指導では、面・小手・胴への打突をねらう剣道から、突きのみで攻撃する銃剣道に発展させることで、より速い足さばきや体さばきの必要性、相手への敬意を大切にしている態度など、武道についての学習をさらに深める。

- ・ ペアやグループ学習を通して、仲間と協力し合い、共に高め合うことのできる人間関係の構築を目指す。
- ・ 外部指導者との交流を通し、多くの方々と触れ合うことで社会



校庭にある「斎藤弥九郎」の銅像



リズム剣道など練習で良かった点や改善点について話し合う生徒たち



かかり稽古

を講師が指導し、その他は教科担任が指導を行った。2・3年生は前年度に基本動作の練習で「リズム剣道」を経験しているため、ペアで足さばきや打突の動きをスムーズに確認し、互いにアドバイスをする姿が見られた。講師が来校した日は、試合を多く取り入れ、講師の技を受けたり切り返したりすることで、実戦に近い動きを経験することができた。

生徒の中には、講師に勝ちたい気持ちから、何度も勝負に挑む姿が見られ、技能向上への意欲が高まった。

《銃剣道》

初めに銃剣道の成り立ちや歴史などについてのDVDを視聴し、その後に講師陣による模範試合を観戦した。審判員を立てての実戦に近い形式で行われ、緊張感と気迫溢れるかけ声や動きなどを観たことで、生徒は力強い突きへの驚きと恐怖心を感じていたが、動と静の無駄のない美しい動きに驚く

様子も見られた。「礼儀作法や技などの所作の美しさ、審判の瞬時の判断力など、銃剣道の魅力を身近で実感することができた」と感想を述べている。

続いて礼儀作法や木銃の持ち方や構え、直れの姿勢を学んだ後、足さばきを実際に行なった。前に踏み出す足が剣道と逆であるため、戸惑う様子も見られたが、反復練習を行うことにより、次第にできるようになった。次の時間には、突きの動作を学んだ後、新聞紙やボールを用いた打突練習を行った。グループで協力し、アドバイスをし合いながら楽しそうに取り組んでいた。

段階を踏んで練習したことで、講師の左胸を目がけて突く練習では、初めに感じた突きへの恐怖心を感じずに取り組むことができた。また、講師陣の「思い切り突いても大丈夫！」という声かけにより、生徒は安心して講師を相手に突きの練習をすることができた。

令和3年度 武道授業全体計画

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種目	剣道						銃剣道					
	導入（あいさつ、伝統的な行動の仕方、健康観察、本時の学習の見通し）、準備運動											
	座礼・立礼											
	リズム剣道（基本動作の反復練習）											
学習の流れ	防具の付け方 しまい方	・足さばき ・体さばき						応じ技	かかり稽古		・銃剣道の歴史・特性 ・礼法 ・構え ・木銃の扱い方 ・模範試合の観戦	・足さばき ・突き方 ・突いた姿勢 ・基本の交差の直突 ・目標物を突く
	・構え方 ・間合い ・素振り	基本打突	基本打突	目的物を打つ	切り返し	引き技 払い技		試合の進め方	練習試合			



講師との稽古



リズム剣道

性を身に付けさせる。

【指導の工夫】

▼効果的に指導するための工夫

《剣道》

- 基本動作を音楽に合わせてリズムミカルに反復練習する「リズム剣道」を取り入れることで、剣道を楽しみながら、筋力・瞬発力・持久力などの体力向上を図る。
- ペアと相対して「リズム剣道」を行うことで、互いの動作や打突の正確性、間合いなどを確認しながら技能を高める。また、練習後に互いの良かった点や改善点を話し合うことで、観察力や伝える力を育成する。

《銃剣道》

- 練習を受ける前に、銃剣道の由来や本旨、修行の目標などを学んだり、試合の映像を観たりすることで剣道との相似点や相違点に気付かせる。
- 新聞紙やボールを用いた練習を

することで、グループで協力し合い、楽しみながら突きの正確性を高める。

- 多くの指導者から指導を受けることにより、安全面に配慮した中で、より細かな指導を行うことが可能。

▼生徒の安全を確保するための工夫

《共通》

- 新型コロナウイルス感染症防止対策として、竹刀や防具、木銃を使用した後に、除菌シートで消毒する。また、毎時間の初めに用具の点検や正しい扱い方の指導を行い、安全への注意を促す。
- 一斉に練習を行う場合は、生徒同士が接触しないように、周囲との距離を十分に取り、互いに声をかけ合うことでケガを予防し、自分の身を守る力を養う。

【実践内容】

《剣道》

週3回の授業のうち、1、2回



新聞紙を突く練習



講師による模範試合



防具を装着した講師を突く練習



飛んできたボールを突く練習

### 3

## 成果と課題

初めて「武道推進モデル校」の指定を受け、生徒にとっても教員にとっても多くのことを学ぶ貴重な機会となった。専門家から、技術面だけでなく武道の現状について教えていただいたことで、知識を広げることができた。そして実践を通して、武士が己の恐怖心に勝つために、心を鍛えるという世界観を感じ、改めて相手や命を尊ぶ精神を大切にする意義を理解することができた。生徒の中には、礼儀正しい所作や凛々しい態度から、武道の美しさに魅力を見いだしている者もいた。

また、授業を楽しく取り組みやすい内容に工夫したことで、生徒は武道の堅苦しさや重々しさを感じずに意欲的に取り組むことができた。さらには、剣道や銃剣道の専門家との交流を通して、技術の指導だけでなく、武道の楽しさを多くの人に伝える普及活動をされていることを知り、人の信念の強さや生き方に強く感銘を受けたようである。

今後の課題は、銃剣道の授業が2時間と少なく、魅力を感じ始めたところで終わったことである。県内外の多方面から講師陣に来ていただくため、連続で授業を展開し、少しでも多くの学習活動ができるように時間を確保する必要がある。

今回の実践を通して、技術面だけでなく、「人としての在り方」を教えていただき、非常に深い学びとなった。

(図1)